

独自システム開発加速

根津鋼材

大手コイルセンターの根津鋼材（本社＝東京都荒川区、根津訓光社長）は自動化・省力化につながる独自システムの開発を加速している。新たに品質異常の検出でラインの稼働を停止した際、遠隔での復旧対応を可能にする「集中品質管理システム」や、販売単価の管理業務と単価改定時の見積書作成業務を一体化させた「見積書システム」などを確立し、このほど運用を開始した。品質管理や生産性向上を図り、他社との差別化を推進するとともに、人手不足のさらなる深刻化にも対応。「従業員の負担を軽減し、人材を確保しやすい職場環境を整える」（根津社長）狙いだ。

集中品質管理システムはトラブル対応時に各ラインに備え付けの端末などを用いて、現場から即座に品質管理部と連絡を取り、対処できるシステムで、品質異常を検出してラインの稼働を停止する

間を最小限にとどめる（同）のがコンセプトだ。たとえば、加工中の母材コイルから、傷や汚れなどの品質不良が検出された場合、システムを立ち上げると、品質管理部のモニターに加工中の客先仕様情報や過去の判定した合格履歴などが表示される。現場からはテレビ電話やカメラを駆使して、不具合発生時の状況を詳細に伝えることが可能。現場へ駆けつける手間が省けるほか、外出先の担当者や他工場の品質管理部にも映像や画像を確認してもらい、必要に応じて顧客にも画像データを提供し、判断を仰

べることができる。また、システムと連携して、現場から発生した時間帯、どの発生した時間帯、作業内容などの蓄積されたデータはAIによる傾向分析や対策立案にも活用していく。販売面では単価管理を効率化する「見積書システム」の運用を開始。単価を変更して見積書を作成し、責任者から承認されると、自動的に販管ソフトの単価設定も変更される仕組みだ。従来の販管ソフトへの入力業務が解消され、業務効率向上につながる。

さらに特徴的なのは、単価変動の推移などのデータを全社平均や客先ごとに抽出し、容易にグラフなどの資料として利用できる点。営業会議などで使用する資料を一から作成する必要がなくなる。「やむを得ない仕事を減らしたり、なくしたりしていくことは働き方改革に直結する（同）。データでしっかり示せることで、仕入れ価格上昇に伴う価格転嫁の際には、顧客からの理解も得やすくなる」と期待する。

投資積極へ人材確保 「つながる工場」推進

自動化や効率化以外にも新たな取り組みとして、新規取引先を対象に「初ロット納入報告書」の提供を始めた。加工した工場や加工の種類、担当者、寸法検査結果、梱包仕様などの情報をまとめて、初回納入時に商品と一緒に届けるサービスで、同社の品質管理やトレーサビリティの体制を感じてもらうことを企図している。この報告書も自動発行される仕組みとなっており、これまで開発したシステムを「つながる工場」によって、こうした新たなサービスが実現した。

同社では自社に情報システム部門を持つ強みを生かし、これまでも発注システムの無償提供や配送の到着予定時刻の通知など、さまざまな独自システムを開発してきた。「これからテクノロジはますます進化していく。われわれも10年、20年と長いスパンで事業を継続していくわけだから、対応するならば早い方がいい（同）として、引き続き自動化や省力的に進めていく。」

「つながる工場」の推進は、単価変動の推移などのデータを全社平均や客先ごとに抽出し、容易にグラフなどの資料として利用できる点。営業会議などで使用する資料を一から作成する必要がなくなる。「やむを得ない仕事を減らしたり、なくしたりしていくことは働き方改革に直結する（同）。データでしっかり示せることで、仕入れ価格上昇に伴う価格転嫁の際には、顧客からの理解も得やすくなる」と期待する。

同社では自社に情報システム部門を持つ強みを生かし、これまでも発注システムの無償提供や配送の到着予定時刻の通知など、さまざまな独自システムを開発してきた。「これからテクノロジはますます進化していく。われわれも10年、20年と長いスパンで事業を継続していくわけだから、対応するならば早い方がいい（同）として、引き続き自動化や省力的に進めていく。」



さまざまなシステムとつながる加ライン

さまざまなシステムとつながる加ライン